

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	高口 恵美	職名	講師	学位	修士(社会福祉学)(福岡県立大学 2011 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
1.子どもの「生活力」に着目したグループワーク 2.メンタルヘルス課題に対する集団認知行動療法	メンタルヘルス、グループワーク、子どもの生活力、 ストレングス、学校ソーシャルワーク

研 究 課 題
子どもの貧困や虐待環境などが及ぼす様々な行動課題に対し、子ども自身がレジリエンスを高め、対応しうる力を高めるために必要なソーシャルスキルについて考察し、プログラムを作成する。

担 当 授 業 科 目
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（前期・後期） 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（前期・後期） 精神保健福祉援助演習Ⅱ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 専門研究Ⅰ（前期・後期） 専門研究Ⅱ（前期・後期） 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（後期） 相談援助演習Ⅰ（後期） 相談援助の理論と方法Ⅰ（前期・後期） 精神保健福祉相談援助の基盤専門（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ 】</p> <p>精神科病院への実習に向け、支援を行う上で必要な、精神疾患に対する理解や制度サービスに関する知識を深めることが出来るよう指導を行った。また、自分の意見や思いを言葉で発信するスキルを高めるため、グループディスカッションや発表の場を多く設けた。また、Ⅱでは地域実習に向け、精神障害者が地域で生活する上での困難さについて理解し、一人ひとりがその人らしく生きるために、精神保健福祉士として担える役割について、ディスカッションを用いて理解を深めた。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助演習Ⅱ・Ⅲ 】</p> <p>精神科医療に限らず、メンタルヘルスに関する支援を行う上で必要な「家族・組織システムを理解する」という広い視点でのアセスメントを意識した演習を取り入れた。また、人のとらえ方（認知）と行動の関連性について理解を深めるため、自己覚知および他者理解の上での違いを受け入れるなどの視点を伝えた。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 】</p> <p>精神保健福祉士としてクライアント理解を深めるための相談援助技術はもちろんのこと、精神疾患の理解を基盤とした、リハビリテーションの理解やプログラムの構築に必要な基本的知識を身に付けられるよう指導を行った。また、現場での多職種連携によるリハビリテーションの実際などを伝え、より実践的なイメージが深まるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉相談援助の基盤(専門) 】</p> <p>精神保健福祉士を目指すうえで基礎的な知識を広く身に付ける教科であるため、テキストに沿って知識の共有を図ることを重視しながら、一方で現場に出たときに役立つよう、要約する、見やすくまとめるなどノートを活用した授業展開を行った。</p>

<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅰ 】</p> <p>主にリモートによる演習となったため、事前にグループワークの方法や視点を伝え、グループでの作業を多く取り入れ、相互交流の中で相談援助技術の基本的動作を实践できるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅰ 】</p> <p>クライアント理解、相談援助技術、支援の流れを学ぶ基本的な教科となるため、それぞれの項目について講義と簡単な演習もしくは動画視聴をセットにして、知識的な学びと体感的学びを取り入れた。とくに相談援助の展開方法については時間をかけて説明し、事例を使って小グループによるグループワークなどで理解を深めた。</p>
<p>授業科目名【 専門研究Ⅰ・Ⅱ 】</p> <p>ゼミ生は様々なレーンに所属しているという強みを生かし、それぞれの関心や領域に応じたテーマを設定したプレゼンを基に、グループディスカッションを用いて視野を広げられるよう指導した。</p> <p>また、4年生に関しては進路選択に繋がるよう、自己理解を深めるワークなどを取り入れた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会		2009年～現在に至る
県立大学社会福祉学会		2010年～現在に至る
日本学校ソーシャルワーク学会		2009年～現在に至る
心理臨床学会		2017年～現在に至る
日本精神保健福祉学会		2018年～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. ADHD タイプの大人のための時間管理プログラム：スタッフマニュアル	共	2020.12	星和書店	①ADHD タイプの大人のための時間管理ワークブックを使ってグループセラピーを実施する上でのガイドブックである。参加者の傾向に合わせて各セッションにおける目標を達成するための専門的見地をまとめている。 ②監修者：中島美鈴 共著者：谷川芳江 他 ③担当部分 総ページ数 P144 ④B5版
2. 働く人のための時間管理ワークブック	共	2021.1	星和書店	①働く人にとって必要なスキルである時間管理を基軸に、自己理解やコントロールを促すワークを通して、多様なスキルを身に着けることを目的としている。 ②監修者：中島美鈴 共著者：前田エミ 他 ③担当部分

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				総ページ数 P128 ④A4版
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1.コロナ禍における地域 公益活動の成立要因	共	2020.8	日本社会福祉学会	①コロナ禍における要保護児童の見守り、繋がり支援を目的とした、食事を通じた学校での居場所作りにおける、他機関や行政との連携、活動生起の流れについてまとめた。 ①共同発表者：前田佳宏

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期等
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 社会福祉士会 精神保健福祉士協会 北九州市精神医療審査会 大牟田市地域福祉計画推進委員会 福岡県教育委員会義務教育課	理事(2012～現在に至る) 委員 地域福祉推進委員 スクールソーシャルワーカーSV	2012年～現在に至る 2005年～現在に至る 2018年～現在に至る 2018年～現在に至る 2013年～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学生募集委員会 委員 2020年4月～

学生相談室 アドバイザー 2018年4月～

地域活動支援室 女性活躍委員 2018年 月～